

平成22年度 学校自己評価シート（さいたま市立浦和高等学校）

目指す学校像	中高一貫教育校として、中学校と連携し、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
重点目標	1 中高一貫教育の確立 2 授業と進路指導の充実 3 国際理解教育と開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価（3月10日現在）			実 施 日 平 成 2 3 年 3 月 1 7 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫校として、4年目を迎え、高校第1学年に中学校第1期生が入学した。 内進生対象の総合系教育課程を実施し、年度末に検討する。 昨年度同様、授業における中高教員の相互乗り入れ、行事や部活動等の中高合同実施を推進する。 	中高一貫教育の確立	<ol style="list-style-type: none"> 総合系教育課程の授業担当者や担任による情報交換を密に行う。 中高合同研修会において中学校選択科目を検討する。中高一貫教育の接続・充実に図る。 中高接続の先進校視察や中高合同のSPPを本年度も引き続き実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合系教育課程の教科担任やHR担任による情報交換の回数 中高教員の相互授業乗り入れ状況 中高合同部活動の実施状況 先進校視察やSPPの実施回数と内容 	<ul style="list-style-type: none"> 県立千葉中・高等学校等への視察を実施し、職員研修会で内容を共有した。 国語・社会・数学・理科・英語・美術で中学の授業を受け持った。 総合系教育課程について検討した。 中学生の参加も得てSPPを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学年に進学する浦和中学1期生について学年団を中心に検討する。 平成24年度実施の中学校の教育課程に見合った教育課程を検討する。 SPPの活動内容や連携先の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者からの意見・要望・評価等 高校教員が中学校の授業を受け持ち、部活動も合同で行うなど中高一貫の特徴を生かしたものとなっている。高校1年にみられる接続ギャップがなく、解消されるものとなっている。今後、中学生に対して幅広い視野で考えさせる指導に期待したい。 SPPを活用するほか、理数系の授業でも多くの生徒に興味を持たせ、科学への関心を深めさせて欲しい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度大学入試センターの受験率が98.4%である。 個別面談や進路ガイダンス、進学補習等により、生徒の進学希望の実現が図られ、国公立大学を始めとする大学への高い現役進学率となっている。 最新の教育施設、設備を活用し効果的な授業を実施している。 文武両道を推進し、活気ある部活動が行われている。進路指導とのバランスをとりながら充実を図る。 	授業と進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と希望進路の実現を目指して、進路ガイダンス、土曜授業、進路補習や保護者進学セミナーを実施する。 CALLシステム等の情報機器を活用した授業等、週34時間授業を手厚い指導で推進する。 各教科で授業研究を進めるとともに先進校や予備校の指導法に学ぶ。 部活動指導等を通して、何事にも最後まで粘り強くやり抜く生徒を育て、国公立大学後期試験まで指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談や進路ガイダンス、進学補習等の実施回数 大学入試センターの受験率 現役進学率 国公立大学や難関大学への進学状況 NAVIセンターやCALLシステムの活用状況 先進校の研修会等への参加 部活動の参加率や大会の成績 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに進路ガイダンスをLHRや総合的な学習の中で実施した。また、面談週間を設けて担任による個別面談を実施した。 大学入試センターへの出願率は96.3%であった。 英語科を中心に情報機器を活用したが、まだまだ不十分である。 自習室を開設した。 全国大会へ4つの部活動が出場し、うち1つの部活動は全国優勝に輝いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談や進路ガイダンスを計画的に実施する。 CALLシステム等の情報機器を活用した授業をさらに進める。 1・2年生に対して進路意識の向上を図り、学力向上に向けた地道な努力を続ける。 自習室や図書室の利用向上を図る。 部活動の活性化を維持するとともに、効率よく練習し、成果の上がる指導法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者とともに満足度の高いアンケート結果となっている。今後も進路指導や生徒指導を充実させるとともに生徒全体の能力や実力の底上げを図った授業を展開していただくとよい。 CALLシステムの活用に当たっては、推進リーダーを置いてより積極的に進めるやり方が考えられるのではないかな。 インターアクト部の全国優勝は大変すばらしいものであり、生徒が本校に入学してよかったと思える品格ある学校作りを今後も推進していただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 高い知性と豊かな感性を育て、国際社会でリーダーとして活躍する生徒育成のため、双方向の国際理解教育を推進する。 ホームページの充実をはじめ、公開授業、学校説明会等様々な機会を活用し、情報提供に努めている。 情報提供等を積極的に行って、本校教育活動に対する関心を高め、高校時から本校に入学する生徒に対する教育内容の一層の充実を図る。 	国際理解教育と開かれた学校づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> 海外研修派遣事業や米国高校生受け入れ事業、海外修学旅行等を実施する。 ホームページを随時更新する。 本校入学希望者に対して、具体的な授業内容、進路指導計画等の情報提供を、学校説明会・公開授業・中学校訪問によって行う。 保護者、学校評議員・学校評価懇話会委員に適宜本校の教育活動について情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流等の実施回数とその内容 ホームページの更新回数および閲覧回数 中学校訪問の回数 学校説明会や公開授業の実施回数 保護者、学校評議員等への情報提供の回数 	<ul style="list-style-type: none"> クローバーヒル高校の訪問団や米国等からの教員等視察団を受け入れた。 シンガポール海外修学旅行を初めて実施した。 全教員による中学校訪問を1回実施した。 土曜公開授業を17回実施した。 説明会を3回実施し、校外での説明会に5回参加した。 保護者へは適宜情報提供を行った。学校評議員等へ情報提供を1回行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きHPの充実を図り本校への入学希望者や本校保護者の求める情報の提供に努める。 シンガポールへの海外修学旅行を次年度も実施し、意義深い学校行事とする。 本校主催の説明会について開催時期や場所・申込方法等について検討する。 保護者、学校評議員等へ適宜本校の教育活動について情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業をはじめ、教育活動全般にわたってどれも大変充実したものになっている。本校の教育活動をHPを通じて広めていただきたい。今後の発展に大いに期待したい。 土曜公開授業は回数も多く、十分である。一方、学校説明会は、説明の内容や説明の仕方にもう一工夫が欲しいところであり、参加者のさまざまな要望に対応して欲しい。 生徒を通じて保護者に確実に連絡が届くようにするとともに現代的な通信手段を活用したシステム作りも必要ではないか。